

川崎市教育委員会賞

ツツジいっぱい!

旭町小学校 5年生 平沢 陽茉莉

春、桜が散って悲しむひまもなく、ツツジの花がそこら中で咲きほこります。右を見ても、左を見ても、ツツジが満開に咲くのが川崎市です。三才まで住んでいた多摩区にも、今住んでいる川崎区にも、たくさんのツツジが見られます。川崎市民の花がツツジだと知ったのは最近でした。それで川崎市内にはたくさんツツジが植えられているんだなとなっとくしました。

川崎市には、やさしい人達がたくさんいます。例えば、学校の登下校の時間にいつも横だん歩道のわきに立ってくれているスクールガードさんです。スクールガードさん達は、朝早く起きて長い時間同じ場所に立って、私達小学生の安全を守ってくれます。小学校に入学してからしばらくの間は、子どもだけで登下校するのが不安でした。それまでようち園はバスで登園していたからです。しかし、所々スクールガードさんが立ってくれていて、毎日大きな声であいさつを返してくれる存在に、はげまされるように、安心して通えるようになったのでした。

小学四年生になる頃には、私も上級生として年下の子達を見守る立場となりました。そんなある日、ふざけんぼの二年生が、分かっている、車の前で両手を広げ、通せんぼをしたことがありました。私はすぐに「あぶないよ」と声をかけましたが、私では効き目がなく、どうしようかあせりました。すかさず、スクールガードさんが気がついて声をかけてくれました。さすがに大人に注意され、すぐに歩道にもどっていきました。何の問題も起きず、毎日安全に登下校できることが当たり前が続いていて気がつかずにいましたが、時々こうして起きる、困った出来事にすぐに気がついてくれるのは、それだけいつも、私達のことを見ているからなのだど知り、はっとしました。

私の住んでいるマンションは、ふみ切り近くにあります。登下校の時間になると、マンションのけいび員さんがマンションのしき地内の横だん歩道と、ふみ切りに立って、そこをわたる小学生を見守ってくれます。低学年の頃は、横だん歩道をわたるタイミングが分からず困ることがよくありました。車の運転手さんが「わたっていいよ」と合図を出してくれていても、それさえ気づけずにいました。そんな私の様子に気がついて、タイミングを教えてもらって、わたったことが何度もありました。

またある時は、友達とマンションの広場で遊んでいると、ふみ切りの方から何か茶色くて素早いものが飛び出してきました。なんと、それはタヌキだったのです。いっしゅんの出来事だったので、何が飛び出してきたのかも分からず、不安になりました。そんな時助けてくれたのもけいび員さんでした。

私のまちには、困っていることに気がついて、助けてくれる大人がたくさんいま

す。それはまるで川崎市にたくさん咲いているツツジのように、そんな大人がたくさんいます。私が大人になったら、さりげなくやさしくしてあげたり、よりそってあげたりできる大人になりたいです。私は、スクールガードさんやけいび員さんを見て「親切ってこういうことだなあ」と思いました。